

## 「建物事故予防ナレッジベース」のインターネット公開について

### 1. 概要

社会の高齢化を反映し、廊下で転ぶ、階段から転落するなど日常生活における建物における事故が多発しており、統計によれば、それらによる死者数は、今後、交通事故の死者数にも匹敵していくことが推定されています（参考資料参照）。こうした事故は、利用者の不注意で生じるケースもありますが、建物の設計者、管理者の不注意による場合もあり、利用者、設計者、管理者が、それぞれ、事故事例を把握し、危険性を認識した上で、一定の配慮をするだけで、多くの事故を予防することができます。

このため、国土技術政策総合研究所では、建物内、建物敷地内における事故防止等に役立てていただくことを目的に、収集した事故事例等を紹介するとともに、事故のパターンやその安全対策に関連した情報を提供する「建物事故予防ナレッジベース<sup>※1</sup>」を作成し、これを8月12日よりインターネット上で公開致します。

※1 「ナレッジベース」とは、知識集（ナレッジ＝知識）という意味です。

### 2. サイトの内容

「建物事故予防ナレッジベース」には、国土技術政策総合研究所が外部識者等の協力を得つつ、アンケート調査や判例検索などを通じて収集した、合計約750件（今後、定期的に追加予定）の、事故及びヒヤリハット事例、事故に関する判例等<sup>※2</sup>を掲載するとともに、事故を類型化した110種類の事故パターン及びその対策、その他関連する資料を、検索しやすく構成しています。

また、このウェブサイトは、建物の利用者の皆様から事故情報やヒヤリハット情報をお寄せいただく<sup>※3</sup>とともに、設計者、管理者の皆様からの失敗例や工夫例などの情報提供をいただく機能も兼ねており、事故予防に役立つ情報の充実を図るため、皆様からの積極的な情報提供を期待しています。

※2 本ナレッジベースでは、公共的な建物での事故等を対象としており、住宅の専用部分での事故は含みません（ただしマンション等の集合住宅の共有部分は含みます）。また、エレベーターなどの機械設備関連の事故事例等については、今年度中に追加する予定です。

※3 この、情報受付システム「建物事故情報ホットライン」は、従来、(財)日本建築防災協会が運営していましたが、本ナレッジベースの開設に合せ、国土技術政策総合研究所に移設いたしました。

### 3. アドレス (URL)

<http://www.tatemonojikoyobo.nilim.go.jp/>

「国総研 HP トップ (<http://www.nilim.go.jp/>) → 「技術者・研究者向け」または「一般の方向け」 → 画面下方のパナーからもアクセス可能です。

担当部局 : 国土技術政策総合研究所 建築研究部  
問い合わせ先 : 同 基準認証システム研究室 高見 Tel 029-864-4387  
同 構造基準研究室 小野 Tel 029-864-4397

○ 建物事故予防ナレッジベース (トップページ) 「事故事例」をクリック(次画面)

○ 事故事例検索画面 (一部) 事故種別と建物用途が選択された状態(150件が該当)

「一覧表示」をクリック

○ 個別事故事例一覧 (一部) 右端「詳細」をクリックすると個別の事故事例へ移動

事故順	事故概要	事故パターン	建物用途	結果	被害程度	情報ソース	詳細
1	多数の店舗が入居している商業ビル内の食堂街の通路を歩行中の者が、通路に付着していた油等によって転倒、左足を骨折するなどの傷害...	汚れ、ごみ	店舗・娯楽施設等	転倒	重度のケガ	裁判判例	詳細
2	店舗来客者が、店舗敷地内の通路部分に設置された車両進入防止用の鉄パイプに足を取られて転倒するという事故により負傷した。	車輪止め・ポール	店舗・娯楽施設等	転倒	重度のケガ	裁判判例	詳細

## ○ 事故事例の詳細（個別事例）

インターネット調査より収集した事故事例

**事故事例の詳細**

[←検索結果一覧へ戻る](#)

**事故概要**

駐車場スペースより高くなっている廊下を、歩いていたら足を踏み外し、廊下と車の狭いスペースに足を落としてしまった。びっくりするくらい、足がみるみる腫れ、重度の内出血を起こした。腫れが引いた後も皮膚内部が腐ったようになって、病院で壊死部分の切開手術を行い、そのあとは毎日消毒包帯交換のために入院。



**この事故の事故パターン**

事故のきっかけ	事故の過程	結果	対策と留意点
	段差	踏みはずす	<a href="#">事故パターンの詳細と留意点を見る</a>

**事故概要詳細**

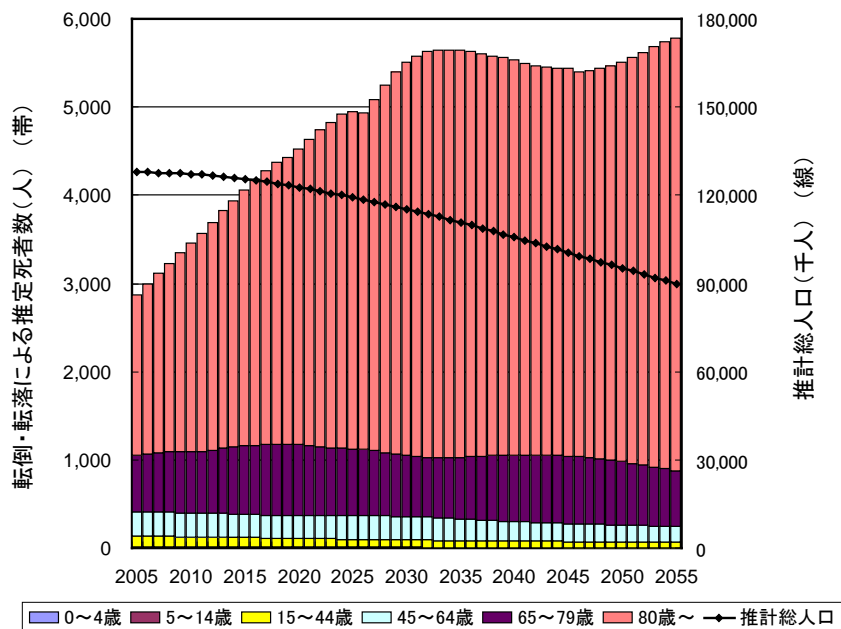
情報ソース	インターネット調査(画像有り)	事故にあった方	年齢	59
建物用途	店舗・娯楽施設等	性別	性別	女
場所	駐車場・車路	利用者要因		
建築部位	段差のある床			
障害程度	重度のケガ			

ID:626[mid.2167]

Copyright©2009,National Institute for Land and Infrastructure Management

分類された事故パターン毎に  
事故防止のための留意点  
(対策案)を参照できる

## ○ 転倒転落による死者数の将来予測（国土技術政策総合研究所による試算）



(参考) 道路交通事故による死者数 「交通事故統計年報」(警察庁)より

平成 15 年	7,702 人
平成 16 年	7,358 人
平成 17 年	6,871 人
平成 18 年	6,352 人
平成 19 年	5,744 人